

PROTECTOR SUITE QL

バージョン
5.4

TouchChip

著作権表示および所有権に関する情報

提供される情報は正確で信頼性のあるものであるように努力されていますが、UPEK[®], Inc は、このような情報を使用した結果について、またこのような情報を使用することから生じる第三者の特許またはその他の権利の侵害に対して責任を負わないものとします。いかなるライセンスも、暗黙的にまたは UPEK, Inc. の特許または特許権のもとで付与されることはありません。この資料で言及している仕様は、事前の通知なく変更されることがあります。この資料は、以前に提供されたすべての情報に優先し、かかる情報に置き換わるものとします。UPEK, Inc の製品は、UPEK, Inc の書面による明示的な許可がない限り、ファイル サポート デバイスまたはファイル サポート システムにおける重要な構成要素としての使用を認定されていません。

UPEK のロゴは UPEK, Inc の登録商標です。

© 2004-2006 UPEK[®], Inc - All Rights Reserved

その他すべての名称は、それぞれの所有者に所有権があります。

UPEK[®], Inc

<http://www.upek.com>

この製品には、OpenSSL Toolkit (<http://www.openssl.org/>) で使用することを目的に OpenSSL Project によって開発されたソフトウェアが組み込まれています。

この製品には Eric Young 氏 (eay@cryptsoft.com) が開発した暗号ソフトウェアが組み込まれています。

商標

TouchChip[®]、Protector Suite[™] は UPEK, Inc の商標です。この資料で言及しているその他すべての製品は、それぞれの所有者の商標であり、そのように扱われるものとします。



第1章

インストール

Protector Suite QL へようこそ。このソフトウェア製品は、Windows 2000 および Windows XP を対象としています（Windows XP のユーザーの簡易切り替え機能に対する特別サポートを含む）。Protector Suite QL では、指紋による生体認証技術を提供するして、ユーザーの利便を図っています。

指紋を登録しておく、指紋を読み取ることで、次の操作を実行できるようになります。

- コンピュータのアクセスとロック
- よく利用する Web ページの表示と入力
- よく利用するダイアログの入力
- 機密情報を含むファイルの保護
- よく利用するアプリケーションの実行
- マウス ホイールの代わりにセンサーを使用したスクロール

インストール

Protector Suite QL は、Windows 2000、Windows XP Home Edition または Professional Edition がインストールされ、USB ポートの空きがあるコンピュータにインストールできます。Protector Suite QL のインストールまたはアンインストールには管理者権限が必要です。

Protector Suite QL をインストールするには

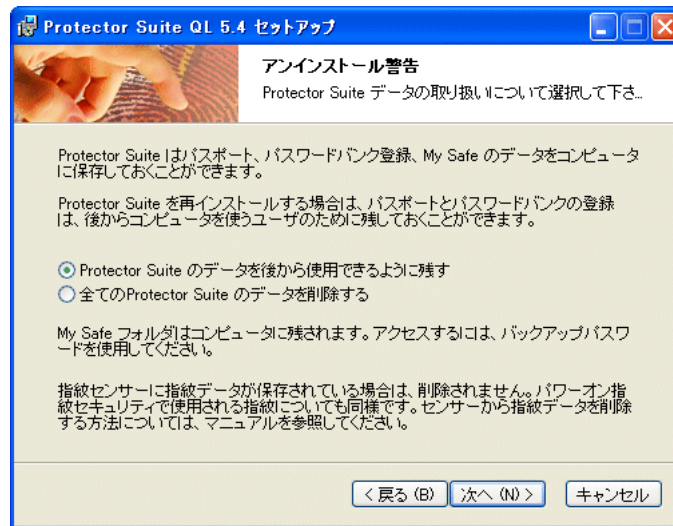
- 1 ソフトウェアがあらかじめインストールされていることがあります。インストール ウィザードにすべての手順が表示されます。
- 2 使用許諾契約書を読んで確認してください。使用許諾契約書に同意しない場合、インストールを続行することはできません。
- 3 ユーザー名と所属組織を入力します。
- 4 Protector Suite QL のインストール ディレクトリを選択します（既定では、Program Files\Protector Suite QL）。
- 5 インストールの終了時に、コンピュータを再起動するよう求められます。再起動しないと Protector Suite QL はアクティブになりません。

インストール時に、必要なすべてのハードウェア ドライバがあらかじめインストールされます。再起動後にハードウェアを接続すると（指紋読み取り装置が内蔵でない場合）、Protector Suite QL の使用を開始できます。

アンインストール

Protector Suite QL をアンインストールするには、[スタート] - [設定] - [コントロール パネル] を選択し、[アプリケーションの追加と削除] を開きます。

[Protector Suite QL] を選択し、[変更] ボタンをクリックします。[削除] オプションを選択します。



コンピュータに保存されている Protector Suite QL のデータの処理方法を選択するよう求められます。

次の 2 つの選択肢があります。

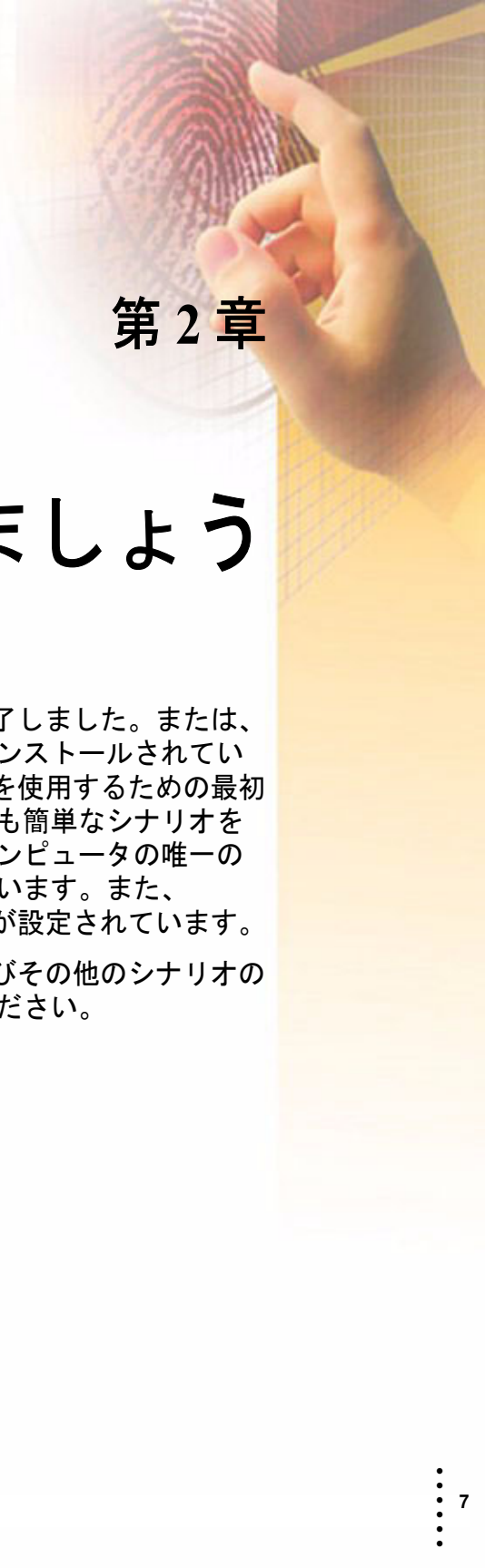
すべてのデータをコンピュータに保存したままにする。このオプションを選択すると、後から Protector Suite QL を再インストールした場合に、登録された指紋やパスワードバンクへの登録を引き続き使用できます。

または

Protector Suite QL のデータをすべてコンピュータから削除する。登録された指紋やパスワードバンクへの登録は永久的に削除されます。

メモ： 指紋読み取り装置への登録オプションを使用したことがある場合は、デバイスメモリにデータが残っています。Protector Suite QL のデバイスメモリを消去する方法については、第 3 章を参照してください。

My Safe フォルダに格納されているファイルやフォルダは、プログラムをアンインストールしても削除されないの、後から Protector Suite QL を再インストールした場合に、それらのファイルやフォルダを使用できます。それらのファイルやフォルダには、My Safe フォルダを作成したときに入力したバックアップパスワードを使用してアクセスできます。ただし、作成した My Safe フォルダが大容量で、後で使用する予定がない場合は、製品をアンインストールする前にそのフォルダを削除することをお勧めします。(My Safe フォルダを削除するには、[コントロールセンター] - [設定] - [ユーザー設定] - [My Safe] ダイアログの [削除] ボタンをクリックします。)

A hand is shown touching a fingerprint sensor on a device. The sensor is a circular area with a grid pattern. The hand is positioned over the sensor, with the index finger touching it. The background is a light yellow color with a subtle grid pattern.

第2章

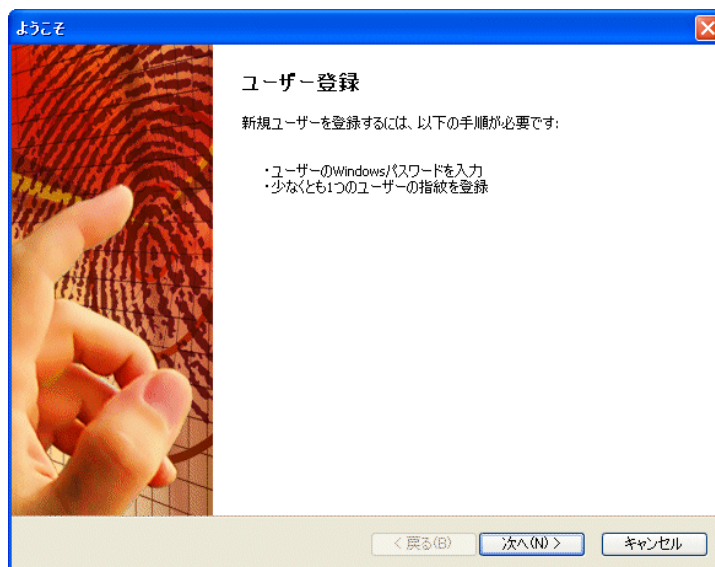
はじめましょう

Protector Suite QL のインストールが完了しました。または、お使いのコンピュータにあらかじめインストールされています。この章では、Protector Suite QL を使用するための最初の手順を説明します。この章では、最も簡単なシナリオを想定しています。つまり、あなたはコンピュータの唯一のユーザーであり、管理者権限を持っています。また、Protector Suite QL の既定の簡易モードが設定されています。

Protector Suite QL の各機能の詳細およびその他のシナリオの違いについては、次の章を参照してください。

初めての使用 - ユーザー登録

- 1 外付け指紋センサーを使う場合、そのデバイスを接続します。必要なドライバはすべて *Protector Suite QL* と共にインストールされています。センサーが接続され、使用する準備が完了したという情報メッセージが、画面の右下に表示されます。ハードウェアの問題が発生した場合は、このガイドの「トラブルシューティング」の章を参照してください。
- 2 [スタート] メニューから [ユーザー登録] を開始します。登録タイプを選択するように求められます。デバイスがデバイス メモリへの登録に対応している場合、認証データをデバイス メモリに保存するか、ハードディスクに保存するかを選択できます。
デバイス メモリへの登録を選択すると、対応する指紋デバイスがなければデータにアクセスできなくなります。認証情報は、指紋認証ユーティリティによって生成されたソフトウェアの暗号化キーだけではなく、デバイスから直接取得したハードウェアの暗号化キーによっても保護されます。
登録を開始します。少なくとも1つの指を登録した後、*Protector Suite QL* のすべての機能を使用できるようになります。
登録ウィザードの説明に従って登録手順を実行します。



3 Windows パスワードを入力します。

Windows パスワードを使用していない場合（空の Windows パスワードを使用している場合）、その情報と、新しいパスワードを作成するかどうかを確認するメッセージが表示されます。

ヒント：Windows パスワードを定義すると、お使いの Windows アカウントのセキュリティが強化されます。

4 指紋チュートリアルを実行することを強くお勧めします。チュートリアルは、登録ウィザードまたは「スタート」メニューから開始できます。チュートリアルは次の 3 ページで構成されます。

- 最初のページでは、チュートリアルの目的が説明されます。

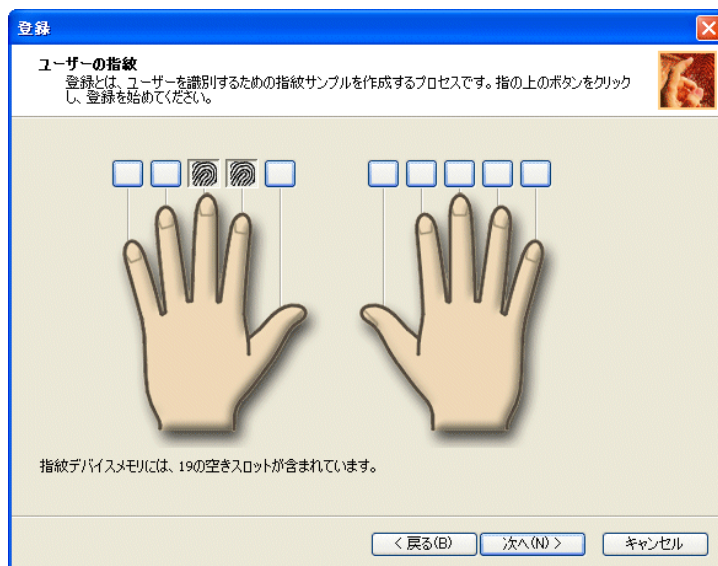
- 2 ページ目では、正しいスキャン方法が表示されます。



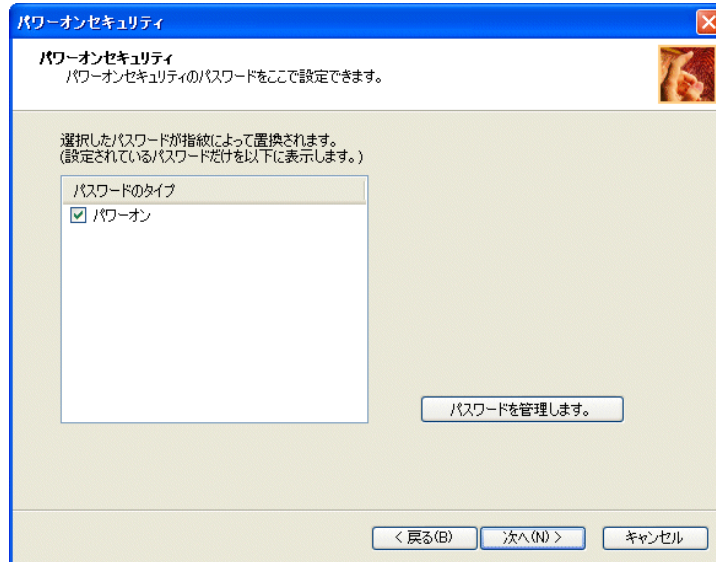
- 3 ページ目では、指紋のサンプルを4 つ作成し、一致するかどうかを確認してみることができます。[ビデオ再生] ボタンをクリックして、正しい動きを再確認できます。サンプルを作成できたら、[終了] をクリックしてチュートリアルを閉じ、登録ウィザードに戻ります。



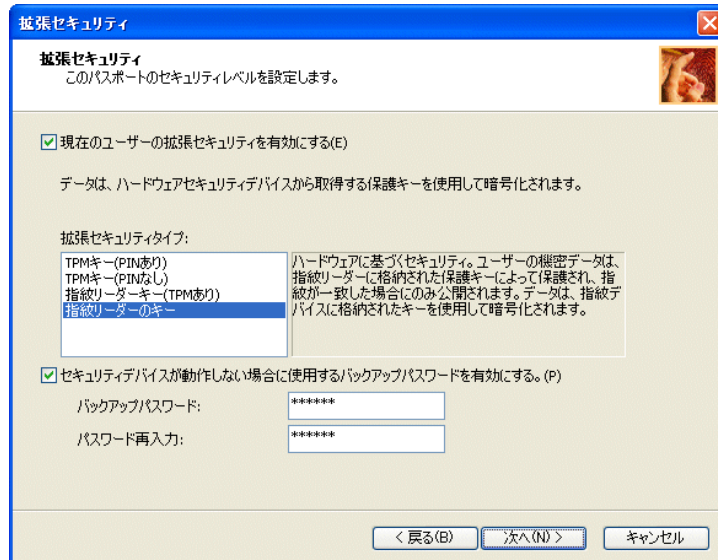
- 5 スキャンする指の上にあるボタンをクリックします。
チュートリアルでの説明に従って、指のサンプルを3つ作成します。この3つのサンプルを使用して最終のテンプレートが作成されます。作成した3つのサンプルが一致しない場合は警告が表示されます。この場合、もう一度チュートリアルを実行することをお勧めします。
最大10本の指の指紋を登録できます。怪我をしたときのために、複数の指を登録しておくことを強くお勧めします。これによって、Protector Suite QL の機能に必要な生体認証にパスすることができます。



- 6 お使いの BIOS が安全な BIOS パスワードに対応している場合、[パワーオンセキュリティ] ページが表示されます。指紋の代わりに使用するパスワードを選択します（パスワードを選択すると、パスワードを入力するように求められます）。
ローカルの管理者は、ここから BIOS のパスワードを管理することもできます。[パスポートの管理] ボタンをクリックすると、[BIOS パスワード] ダイアログが開き、パスポートを設定、設定解除、または変更できます。



- 7 一部のハードウェアの設定では、暗号化によってさらにデータセキュリティが強化されます。このような設定では、拡張セキュリティのタイプの追加ダイアログが表示されます。拡張セキュリティのタイプを選択します。拡張セキュリティの詳細については、第3章を参照してください。バックアップパスワードを設定することをお勧めします。生体認証が失敗したときに役立ちます。



- 8 登録ウィザードを完了すると、[紹介] 画面に、*Protector Suite QL* で指紋を使用できる方法の例が表示されます。

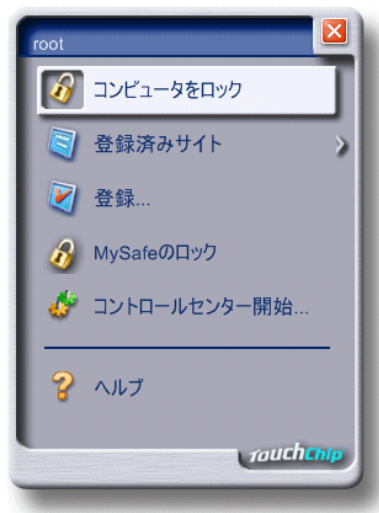
指紋を登録した後、指を使って以下のことができます。

- コンピュータ アカウントにアクセスする。
- すべての機能を含むバイOMETリックメニューを表示する（コンピュータのロック、ページやダイアログの登録、*My Safe* フォルダへのアクセスなど）。センサー上で指を動かして、バイOMETリックメニューを操作できます。
- 登録済みフォームまたはダイアログに入力する。
- お気に入りのアプリケーションを起動する。

メモ：パスポートは、Windows のユーザーごとに 1 つしか作成できません。ユーザー アカウントを作成するには、[スタート] - [設定] - [コントロール パネル] を選択し、[ユーザー アカウント] をクリックします。画面の指示に従って操作してください。

バイオメトリック メニュー - 主要機能へのアクセス

指紋を登録したら、さまざまな操作を指で実行できます。指を読み取り、バイオメトリック メニューを開きます。

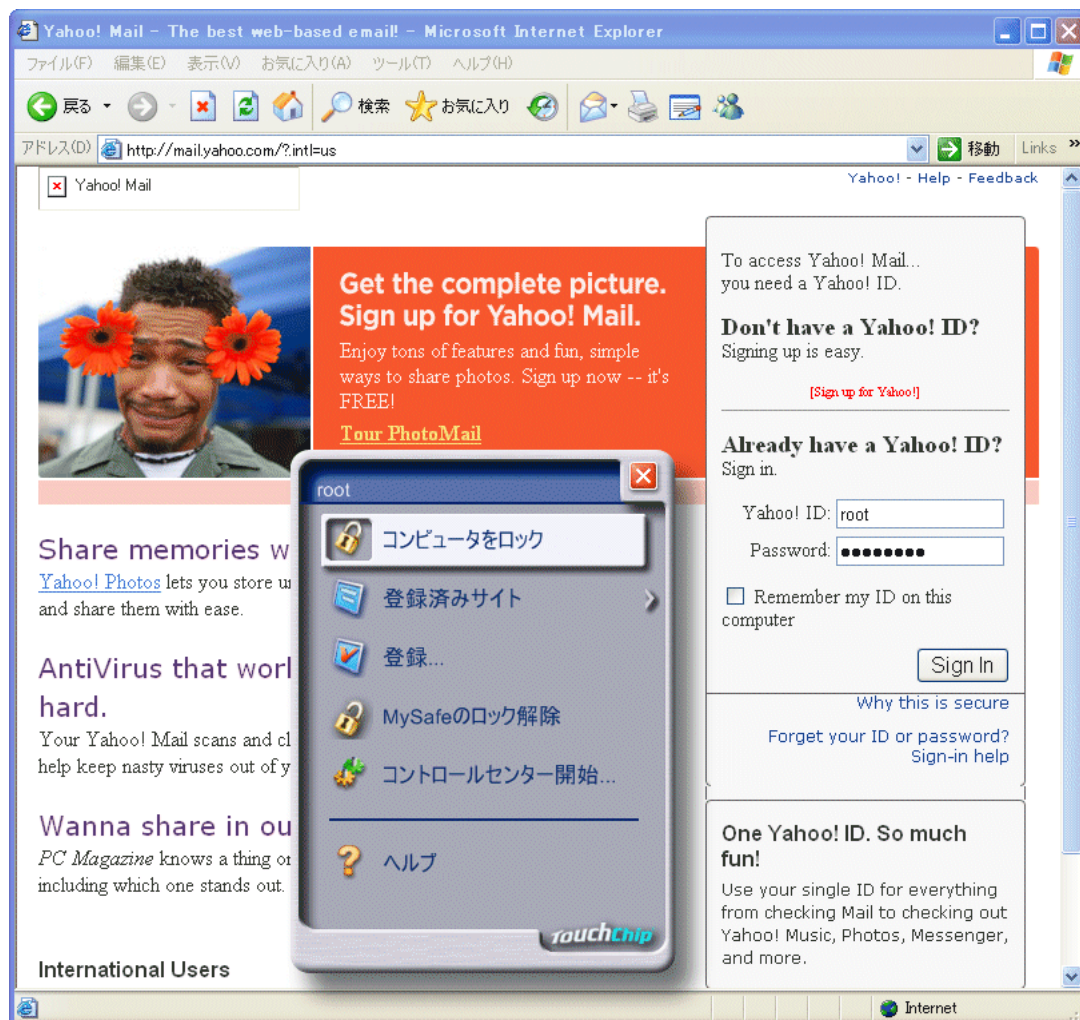


バイオメトリック メニューで、Protector Suite QL の機能にアクセスできます。指を読み取ると既定で別の操作が行われる（登録済みウィンドウがアクティブになるなど）場合に、バイオメトリック メニューを強制的に表示するには、**Shift** キーを押しながら指を読み取ってください。バイオメトリック メニューは、バイオメトリック ナビゲートをサポートしています。つまり、マウスの代わりにセンサーを使って操作することができます。指を動かしてバイオメトリック メニューを操作し、選択した項目を軽くたたいて該当する機能を実行します。

パスワードバンク - Web ページとダイアログの登録

多くの Web ページや他のアプリケーションでは、表示するたびにユーザー名やパスワードなどのさまざまなデータを入力する必要があります。パスワードバンクは、このような状況に適した解決策です。情報を入力（または必要なオプションを選択）し、ウィンドウを登録します。後でそのページまたはダイアログにアクセスし、センサーで指を読み取ると、保存されている情報をリプレイできます。

ブラウザを開き、登録するページに移動（または登録するダイアログを表示）します。登録に含める情報をすべて入力します。指を読み取り、バイオメトリックメニューを開きます。[登録 ...] を選択します。



入力したすべてのデータが保存されます。登録が正常に作成されたことを示すメッセージが表示されます。

登録した Web ページは、バイオメトリック メニューの [登録済みサイト] から直接アクセスできます。



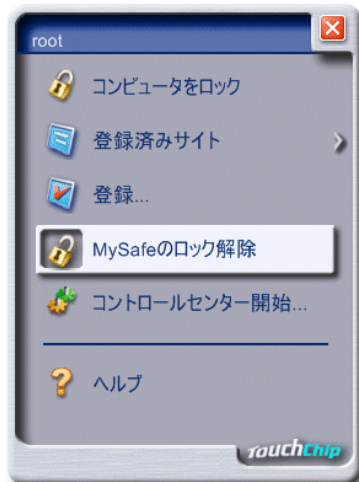
登録したダイアログまたは Web ページの情報をリプレイするには、そのダイアログまたは Web ページが表示されたときにセンサーで指を読み取ります。登録に保存されたデータが自動的にフォームに入力されます。

パスワードバンクと可能な設定の詳細については、27 ページの「パスワードバンク」および 42 ページの「設定」を参照してください。

My Safe - 重要なファイルの保護

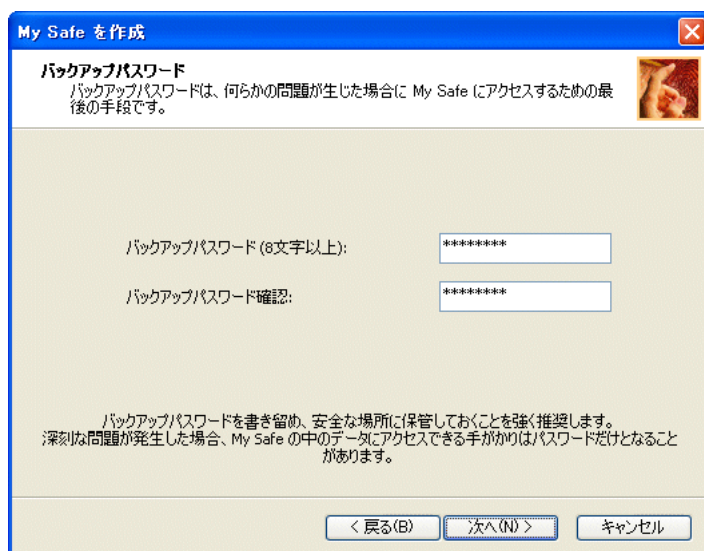
お使いのコンピュータに他のユーザーもアクセスできる場合、暗号化された記憶領域を作成することもできます。My Safe は、重要なファイルを保存できる場所です。ここに保存すると、指紋でしかアクセスできなくなります。

My Safe を使用するには、指を読み取り、バイオメトリックメニューから [My Safe のアンロック] を選択します。



この機能を使うためには、まず My Safe フォルダを作成しておく必要があります。フォルダ作成にはウィザードを使います。

My Safe バックアップ パスワードを定義するように指示されます。バイオメトリック デバイスに問題が発生した場合は、このパスワードを使って My Safe を開くことができます。バックアップ パスワードは 8 文字以上にする必要があります。



My Safe を作成

バックアップパスワード
バックアップパスワードは、何らかの問題が生じた場合に My Safe にアクセスするための最後の手段です。

バックアップパスワード (8文字以上):

バックアップパスワード確認:

バックアップパスワードを書き留め、安全な場所に保管しておくことを強く推奨します。
深刻な問題が発生した場合、My Safe の中のデータにアクセスできる手がかりはパスワードだけとなります。

< 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル

My Safe のサイズを設定します。既定のサイズは 50 MB です。My Safe フォルダのサイズは後から変更できます。サイズを変更しても保存されているデータには影響しません。



My Safe を作成

初期サイズ
My Safeに割り当てるディスク容量を入力します。
必要に応じて後でこの値を変更することができます。

My Safe の初期サイズ (MB):

< 戻る(B) 完了 キャンセル

他のフォルダと同様に、My Safe フォルダにファイルやフォルダを置くことができます。My Safe フォルダはマイ ドキュメントの下にあります。作業が終わったら、バイオメトリック メニューから [My Safe のロック] を選択します。重要なファイルが、他のユーザーから表示またはアクセスできなくなります。

My Safe の使用の詳細については、32 ページの「My Safe」を参照してください。

コントロール センター

これは Protector Suite QL の各設定に共通のユーザー インターフェイスです。利用可能な個々の機能については、36 ページを参照してください。

Protector Suite QL コントロール センターを使用するには、以下のいずれかを実行します。

- [スタート]- [プログラム]- [Protector Suite QL]- [コントロール センター] を選択します。
- バイオメトリック メニューから [コントロール センター] を選択します。
- トレイ アイコン メニューから [コントロールセンター開始] を選択します。

アプリケーションの起動

所定の指を読み取ることで、コンピュータ上のアプリケーション（実行可能ファイル）を起動できます。アプリケーション ランチャーの詳細については、49 ページを参照してください。

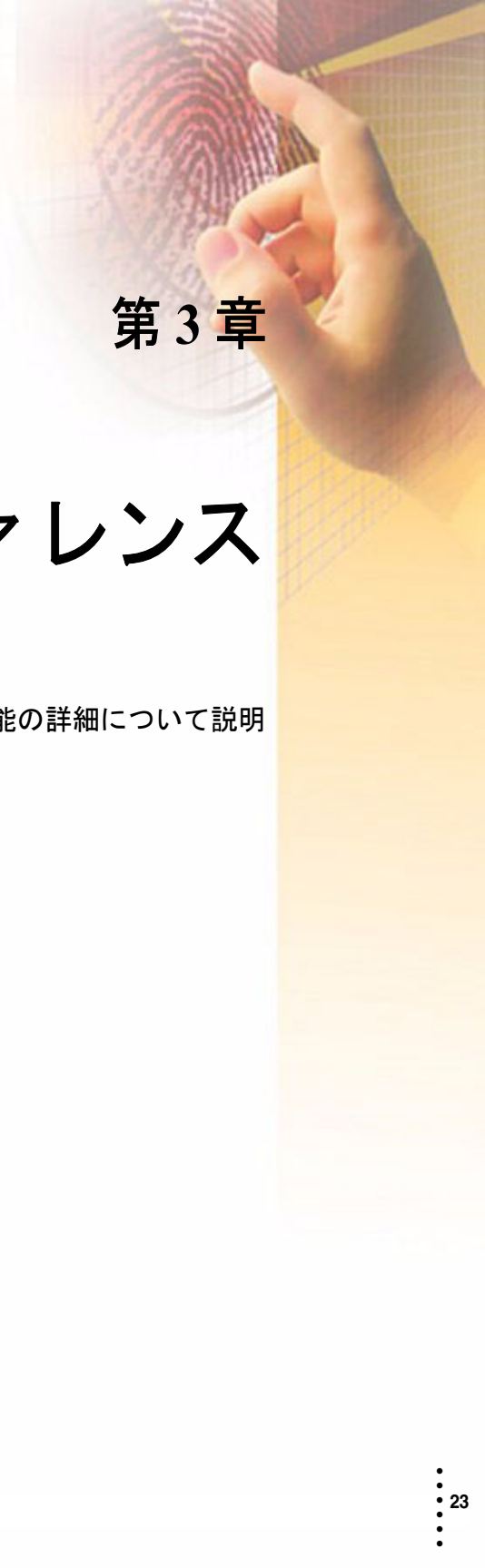
登録した指とアプリケーションを関連付けるには

- 1 [コントロール センター] を開き、[設定]- [ユーザー設定] を選択します。指を読み取り、認証を実行します。
- 2 [アプリケーション] タブを選択します。
- 3 [追加] ボタンをクリックします。[アプリケーション] ダイアログが開きます。
- 4 一覧から登録済みの指を選択します。
- 5 アプリケーションのわかりやすい名前を入力します（この名前は [ユーザー設定] の [アプリケーション] ページに表示されます）。
- 6 起動するアプリケーションを参照します。実行可能ファイルであればどのファイルでもかまいません。
- 7 オプションで、アプリケーションパラメータが必要な場合はそれを入力します。
- 8 [OK] をクリックします。

ユーザーの簡易切り替え

Windows XP のユーザーの簡易切り替え機能（FUS）にも対応しています。ユーザー A がログオン中でユーザー B（ユーザー登録済み）がセンサーに指を置くと、Protector Suite QL によってユーザー B の指紋が認識され、ユーザーが切り替えられます。

ユーザーの簡易切り替えサポートを有効にするには、[コントロール センター] - [設定] - [システム設定] を選択し、[ユーザーの簡易切り替えサポートを有効にする] チェック ボックスをオンにします（このオプションは、Windows XP をご使用の場合のみ表示されます。コンピュータがドメインのメンバーでない場合のみこのオプションを使用できます）。現在システムで FUS がサポートされていない場合は、画面の指示に従ってください。この変更を行った後、再起動が必要な場合があります。



第3章

リファレンス

この章では、Protector Suite QL の各機能の詳細について説明します。

登録

バイOMETリック メニュー

指紋ログオン

パスワード バンク

My Safe

アプリケーション ランチャー

コントロール センター

システム トレイ アイコン

登録

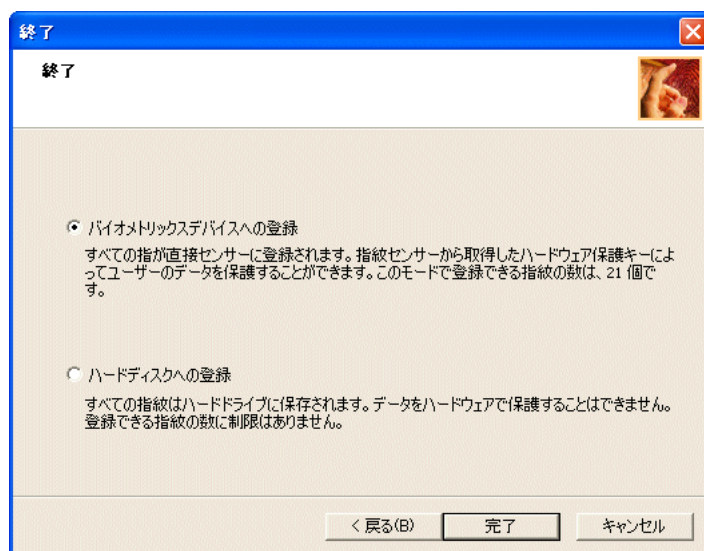
Protector Suite QL の各機能を使用するには、まず登録する必要があります。登録は、ユーザー名とパスワード、元のイメージを復元できないようにコンピュータ処理された指紋、および自動生成されたセキュリティ キーの照合データを作成する処理です。すべてのデータはパスポートに保存されます。

Protector Suite QL が自動的に起動します。Protector Suite QL の機能および設定を操作するには、[スタート] メニュー ショートカット ([スタート] - [プログラム] - [Protector Suite]) を選択すると、[コントロール センター]、[ユーザー登録]、[指紋チュートリアル]、[ヘルプ] のショートカットが表示されます)、バイオメトリック メニュー、またはトレイ アイコン メニューを使用します。

登録タイプ

ユーザーの指紋サンプルから取得した認証データは、デバイス メモリまたはハードディスクに保存されます。どちらの場合もデータは暗号化されてから保存されます。

インストール後、初めて登録する際は、デバイスの初期化が必要になる場合があります。インストール時に登録タイプの選択を要求されます (デバイスの種類によっては、自動的に初期化されます)。初期化が完了すると、すぐに登録処理が開始します。



デバイス メモリへの登録を選択した場合、データにアクセスする際に対応する指紋デバイスが必要になります。認証情報は、指紋認証ユーティリティによって生成されたソフトウェアの暗号化キーだけでなく、デバイスから直接取得したハードウェアの暗号化キーによっても保護されます。

制限はデバイス メモリのサイズのみです。一部のユーザーに対してデバイス メモリの制限を超える数の指紋を登録する場合（通常のメモリ サイズでは 21 個までの指紋を登録できます）、ハードディスクへの登録が必要になります。

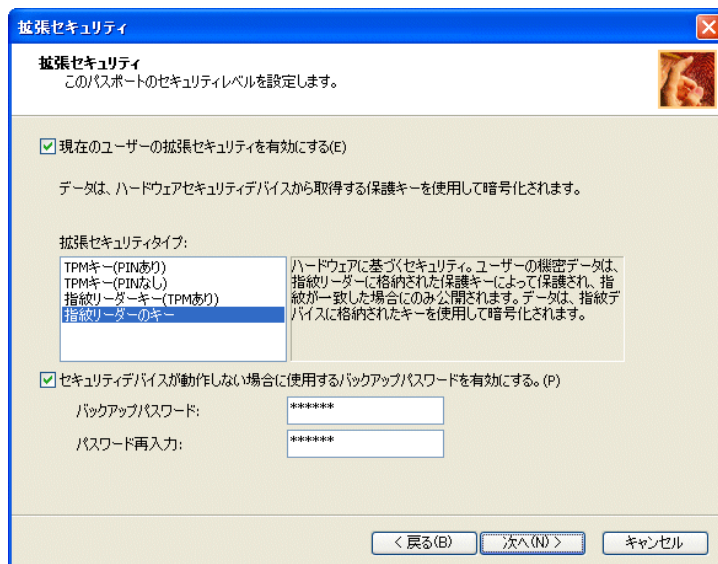
[ハードディスクへの登録] を選択した場合、データはソフトウェア キーで暗号化されます。生体認証を任意の指紋読み取り装置で行うことができます。

警告：選択した登録タイプを後から変更することはできません。変更する場合は、Protector Suite QL をアンインストールしてから再インストールする必要があります。

指紋の登録方法およびパスポートの管理方法の詳細については、36 ページを参照してください。

拡張セキュリティ

Protector Suite QL のセキュリティは、暗号化を適用することによってさらに向上します。適用できる暗号化方式は、ハードウェアによって異なります。拡張セキュリティの有効 / 無効は、ユーザーごとに、[指紋の登録、または編集] ウィザードの最後に設定できます。必要とするセキュリティ レベルやインストールの手間に応じ、暗号化方式を変更することも同じダイアログで可能です。



指紋読み取り装置キーと TPM

専用のハードウェアを使う、高度なセキュリティ方式です。TPM セキュリティチップと指紋読み取り装置の通信チャネルを暗号化することにより、機密データのセキュリティをさらに高めます。最高のセキュリティを必要とする場合にお勧めの方式です。

指紋読み取り装置キー

専用のハードウェアを使うセキュリティ方式です。指紋読み取り装置内に格納された保護キーを使って機密データを暗号化します。指紋が一致しなければ復号できません。データの暗号化キーは、指紋デバイスに保存されているものを使います。

TPM キー（PIN あり）

TPM セキュリティチップと PIN を使って機密データを保護します。PIN は認証のたびに入力する必要があります。セキュリティを高めるためにはお勧めの方式です。

TPM キー（PIN なし）

PM セキュリティチップを使って機密データを保護します。非常に使いやすいのでお勧めです。

ログオンのサポート

Protector Suite QL は Novell ネットワーク ログオンをサポートします。Protector Suite QL を介して Novell ネットワークに自動ログオンするためには、Windows 側のユーザー名とパスワードが、Novell 側のそれと一致している必要があります。一部の Novell クライアントは、サードパーティーのログオンアプリケーションに対応していない場合があります。クライアント 4.83 および 4.90 はサポートされません。

バイオメトリック メニュー

バイオメトリック メニューには、生体認証が必要な Protector Suite QL の機能のうちよく使われるものに対するリンクが表示されます。バイオメトリック メニューを起動するには、登録の完了後、指を読み取ります。これで登録済みサイトに接続され、新しいフォーム、Web サイト、またはダイアログを登録できるようになります（27 ページの「パスワードバンク」を参照）。My Safe をロックまたはアンロックできます（32 ページの「My Safe」を参照）。コンピュータのロック、コントロールセンターの実行（36 ページの「コントロールセンター」を参照）、またはヘルプの表示を行うこともできます。

指紋ログオン

標準の Windows ログオンではなく、指紋を使用すると、コンピュータのセキュリティが向上し、ログオンが簡素化されます。生体認証ログオンでスクリーンセーバー（スクリーンセーバーからの再開にパスワード保護を設定する必要があります）や省電力機能からのウェイクアップも保護されます（スタンバイ、ハイバネーション - 「省電力状態から再開するときにパスワードを入力する」がシステムに設定されている必要があります）。

メモ：コンピュータの保護のためには Windows パスワードを設定しておく必要があります。Windows パスワードを設定しておかないと、Protector Suite QL があってもアクセスの安全性を保証することはできません。

Protector Suite QL のセキュリティ レベルを制御するには、以下のいずれかのセキュリティ モードを設定します。

簡易モードでは、どのユーザーの権限も同じです。このモードでは、すべてのユーザーが各自のパスポートに登録し、そのパスポートを管理します。

セキュア モードには、パスポートを管理する管理者ロールが存在します。既定では、Protector Suite QL の管理者はすべてローカル管理者グループのメンバになります。ユーザーを追加するには、「管理者グループ」 ボタンをクリックし、「システム設定」のセキュリティ モード ページを表示します。Protector Suite QL の管理者はすべてのユーザーのパスポートを作成および管理し、ローカル管理者グループのメンバであれば、システム設定（すべてのユーザーに共通の設定）も行います。したがって、セキュア モードでは、すべてのユーザーが後述する機能および設定のすべてを使用できるわけではありません。

メモ：ユーザーの登録、ユーザーの削除（認証なし）、任意のユーザーのデータのエクスポート/インポート、パワーオンセキュリティ管理、「指紋記憶検査装置」による他ユーザーの指紋の削除（指紋デバイスへの登録のみ）、ユーザー名とパスワードによるログオンの操作を実行できるのは、Protector Suite QL 管理者グループのメンバのみです。

指紋ログオンの詳細については、42 ページを参照してください。

パスワードバンク

パスワード バンクでは、Web ページやアプリケーション ダイアログに入力されたデータを登録しておいて、後からリプレイすることができます。登録できるのは、Web フォーム（ユーザー名とパスワードを入力してメール アカウント、インターネットバンキング、e- ショップにログインするログイン ページなど）または Windows アプリケーション ダイアログ（ネット共有、データベース プログラムや電子メールクライアントのログオンダイアログを表示する Windows エクスプローラ ダイアログなど）です。ログオン情報は、登録の作成時に一度

入力したら、後は指紋を使用してパスワードに保存しておくだけです。ダイアログまたは Web ページを再表示するときに指を読み取ると、ユーザーのデータが自動入力されます。

パスワードバンクでサポートされるブラウザは、Internet Explorer 5.0 以上、Mozilla 1.3 ~ 1.7、Netscape 7.0 ~ 8.0.4、Firefox 1.0 ~ 1.5 です。Internet Explorer のサポートは自動インストールされます。Mozilla、Firefox、または Netscape が検出されると、サポートを有効にするかどうかを確認するメッセージが表示されます。Mozilla、Firefox、または Netscape のサポートは、[コントロールセンター] - [設定] - [ユーザー設定] - [パスワードバンク] で有効にすることもできます。ブラウザでパスワードバンクを使用できるようにするには、対応するチェックボックスをオンにしてください（このオプションを表示し、他のブラウザを有効にできるのはローカル管理者のみです）。

パスワードバンクでは、ダイアログの登録、ダイアログのリプレイなどの操作が可能な場合にユーザーに対してヒントが表示されます。これらのヒントは Protector Suite QL の [ユーザー設定] で有効または無効にすることができます。ただし、指紋認証を使わずにユーザー名とパスワードでログオンした場合、指紋認証を行うまでヒントは表示されません。

ヒントの表示を設定するには

- 1 [スタート] - [プログラム] - [Protector Suite QL] - [コントロールセンター] を選択します。
- 2 [ユーザー設定] を選択します。認証を要求されます。
- 3 [パスワードバンク] を選択します。
- 4 表示するヒントを選択します。
 - [登録がリプレイされる場合に通知する] - これは、登録のリプレイが開始されることを通知します。この通知は、同じフォームまたはダイアログの登録をさらに作成したい場合や、既に入力したデータを上書きしたくない場合に便利です。
 - [登録が作成された後に通知する] - これは、登録が正常に作成されたことを通知します。
 - [パスワードフィールドが編集される場合に通知する] - これは、パスワードフィールドが読み取り可能なフォームに表示されることを通知します。
 - [ダイアログがリプレイ可能な場合に通知する] - これは、登録のリプレイが可能なことを通知します。

- [ダイアログが登録に適している場合に通知する]- これは、ダイアログに登録可能なパスワード フィールドが含まれていることを通知します。
- [インターネット ページがリプレイ可能な場合に通知する]- これは、登録のリプレイが可能なことを通知します。
- [インターネット ページが登録に適している場合に通知する]- これは、そのページに登録可能なパスワード フィールドが含まれていることを通知します。

ページの登録

Web ブラウザを開き、登録する Web ページを表示します。登録するデータをすべて入力したら、指を読み取り、バイオメトリック メニューから「ウィンドウの登録」を選択します。すべてのデータが保存されます。登録済みページは、バイオメトリック メニューの「登録済みサイト」から直接開くこともできます。

Web ページの登録形式は、サポートされるすべてのブラウザで同じなので、Internet Explorer などで作成した登録を後から Mozilla でリプレイすることもできます。

パスワード バンクは個々のフォームを登録します。ページに複数のフォームが含まれる場合、フォームごとに登録が必要になります。登録されるのはアクティブなフォームのみです。登録が既に存在するページにフォーム（1 ページに複数のフォーム）を登録するには、Shift キーを押しながら指を読み取り、バイオメトリック メニューを表示します（ページが既に登録されている場合は、Shift キーを押さずにセンサーで指を読み取ると、既存の登録がリプレイされます）。

複数のフォームが存在するページを登録すると、以下の手順で処理が行われます。

- アクティブなフォームが登録されます。
- アクティブなフォームが存在しない場合、Internet Explorer 5.5 以上を使用していれば、ユーザーは登録するフォームを選択するよう要求されます。
- 上記以外の場合、処理は行われません。

サンプル シナリオ

ページには登録が存在しないものとします。このページにフォーム A とフォーム B が存在します。

- A. フォーム A への入力完了し、このフォームはまだアクティブな状態にあります。センサーで指を読み取ります。フォーム A が登録されます。
- B. フォーム A への入力完了したので、フォーム B に移動し、フォーム B がアクティブになりました。センサーで指を読み取ります。フォーム B が登録されます（ただし中身は空です）。
- C. フォーム A への入力完了し、フォームの外側をクリックしたので、どのフォームもアクティブではなくなりました。ブラウザは Internet Explorer 5.5 以上を使用しています。センサーで指を読み取ります。登録するフォームを選択するよう要求されます。
- D. C と同じ状況で、ブラウザは IE 5.5 より古いバージョン、Mozilla、または Netscape を使用しています。処理は行われません。

登録済み Web ページのリプレイ

ページをバイオメトリック メニューの「登録済みサイト」から表示すると、既存の登録が自動的にリプレイされます。ページを手動で表示して登録をリプレイするには、センサーで指を読み取ります。

複数のフォームを持つページの登録をリプレイすると、以下の手順で処理されます。

- 既存のフォームの総数に関係なく、ページの登録が1つしかない場合は、その登録がリプレイされます。
- 複数の登録済みフォームがあり、登録済みフォームのうち1つがアクティブな場合、このフォームがリプレイされます。
- アクティブなフォームがない場合、このページの既存の登録がすべてリプレイ候補として提示されます。リプレイする登録を選択します。

ダイアログの登録とリプレイ

パスワードバンクは、主に、ユーザー名とパスワードのフィールドを表示する単純なダイアログ（通常は各種アプリケーションへのログイン ダイアログ）を登録するための機能です。

複雑なダイアログに使用すると、問題が発生する場合があります。テキスト フィールドとパスワード フィールドはいつでも登録可能です。登録すると、非表示、無効、最小化などの状態になっていないコントロールが保存されます。標準 Windows コントロール（システム ダイアログなど）を使用しているアプリケーションでは、ラジオ ボタン、チェック ボックス、コンボ ボックス、リスト ボックスの選択内容が登録されます。登録されたすべての情報は、パスワードの変更を要求された場合などに編集可能です。

ページが複数あるダイアログでは、問題が発生する場合があります。場合によっては、すべてのページが1つにまとめて登録される可能性があります。パスワードバンクでは、使用前にコントロールを作成しないダイアログは正常に処理されません。一般的な例として、Microsoft Office の一部のダイアログが挙げられます。

登録済みのダイアログをリプレイするとき、一部のコントロールの変更によりユーザー応答が必要な操作が呼び出される場合、パスワードバンクはダイアログの処理を中断して待機し、操作が終了してからリプレイを完了します。

登録の管理

すべての登録は、[コントロール センター] - [設定] - [ユーザー設定] - [登録] ダイアログで表示できます。登録内容を変更して、データや登録済みページの変更を反映させることも可能です。また、リプレイした登録の自動送信をオンまたはオフにすることができます。登録内容をエクスポートしてバックアップとして使用したり、他のコンピュータで使用したり、その内容をコンピュータにインポートしたりすることも可能です。

登録を管理するには

- 1 [スタート]- [プログラム]- [Protector Suite QL]- [コントロール センター] を選択します。
- 2 [ユーザー設定] を選択します。認証を要求されます。
- 3 [登録] を選択します。



- 4 使用する登録を選択します。

- [登録] に表示された登録の識別名を変更するには、[名前の変更] ボタンをクリックします。
- 登録を削除するには、[削除] ボタンをクリックします。
- 登録に保存されたデータを変更するには、[編集] ボタンをクリックします（例：パスワードまたはアドレスを変更し、その変更を既存の登録に反映する）。
- [自動提出フォーム] チェック ボックスをオンにすると、登録内容に従ってリプレイした後、選択したフォームの登録が自動的に提出されます。[自動提出] チェック ボックスをオンにすると、既定のダイアログ ボタン（通常は [OK]）をクリックしたときに、選択したダイアログの登録が提出されます。
- 選択した登録をエクスポートするには、[エクスポート] ボタンをクリックします。登録を選択しなければ、すべての登録がエクスポートされます。エクスポート先ファイルを選択し、登録の保護に使用するパスワードを入力するよう要求されます。パスワードバンク ファイルのファイル拡張子は.pb です。
- パスワードバンク ファイルから登録をインポートするには、[インポート] をクリックします。インポートする.pb ファイルを選択します。インポートした登録で既存の登録を上書きするか、インポートした登録を登録リストに追加するかを選択します。エクスポート時に作成したパスワードを入力します。

My Safe

My Safe は指紋で保護されたフォルダです。このフォルダのサイズはいつでも変更可能です。My Safe フォルダは [マイ ドキュメント] フォルダの下にあります。My Safe フォルダの内容は他のユーザー（FUS を使用している場合、他のログイン ユーザーを含む）からは見えません。

簡単に操作できるように、デスクトップと [マイ コンピュータ] の下にショートカットが作成されます。



[My Safe をロック] コマンドおよび [My Safe のアンロック] コマンドを使用するには、バイオメトリック メニューのコンテキスト メニューから [My Safe] (またはそのショートカット) を選択します。

初めて My Safe をアンロックする場合、まず My Safe を作成しておく必要があります。My Safe の作成時に、My Safe のバックアップパスワードと初期サイズを指定する必要があります。この設定は後から変更できます。My Safe の最大サイズは 2047 MB です。

バックアップパスワード

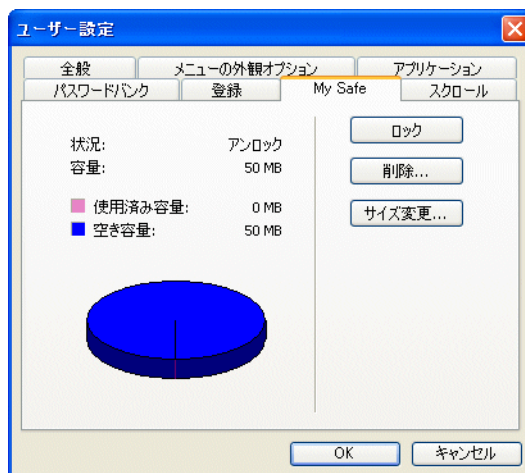
My Safe の作成時に入力を要求されたバックアップパスワードは、指紋センサーでエラーが発生したりして、登録されている指紋が使えない場合に、My Safe に保存されたデータへのアクセスに使用できます。これまでと同じ方法で My Safe にアクセスしてください。問題の内容を通知するダイアログが表示され、バックアップパスワードの入力を要求されます。

ヒント: バックアップパスワードを忘れた場合は、古い My Safe をこのダイアログから削除し、新しい My Safe を作成してください (既存の My Safe に保存されているすべてのデータは削除されます)。

My Safe フォルダを管理するには

- 1 [スタート]- [プログラム]- [Protector Suite QL]- [コントロール センター] を選択します。
- 2 [ユーザー設定] を選択します。認証を要求されます。

3 [My Safe] を選択します。



My Safe の状態（ロック / アンロック）とサイズ（My Safe が開いている場合は空き容量と使用済み容量）に関する情報が表示されます。状況によっては一部のボタンが使用できない場合があります。他のオプションを使用可能にするには、[My Safe] の状態を変更します。

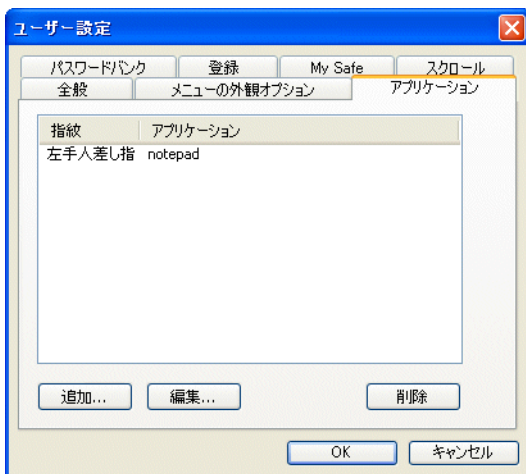
- My Safe フォルダを作成するには、[作成] ボタンをクリックします。このボタンは、My Safe フォルダが存在しない場合にのみ使用可能です。
- My Safe フォルダをアンロックするには、[アンロック] ボタンをクリックします。このボタンは、My Safe がロックされている場合にのみ使用可能です。My Safe フォルダに保存されているデータにアクセスできるのは、My Safe がアンロック状態の場合のみです。
- My Safe フォルダをロックするには、[ロック] ボタンをクリックします。このボタンは、My Safe フォルダがアンロックされている場合にのみ使用可能です。
- My Safe フォルダを削除するには、[削除] ボタンをクリックします。My Safe フォルダに保存されているすべてのデータは永久的に削除され、元に戻すことはできません。
- My Safe のサイズを変更するには、[サイズ変更] ボタンをクリックします。この操作は、My Safe に保存されているデータには影響しません。

My Safe に保存されているすべてのファイルは、アンロックされていれば、ログオン中はアクセス可能です。セッション終了後（ログオフした後）、このフォルダは自動的にロックされます。その他の場合は、My Safe を手動でロックして重要なファイルを保護してください。

アプリケーション ランチャー

所定の指を読み取ることで、コンピュータ上のアプリケーション（実行可能ファイル）を起動できます。バイオメトリック メニューの表示用に、少なくとも1つは登録済みの指を未割り当てのままにしておく必要があります。アプリケーションの起動を無効にしてバイオメトリック メニューを起動するには、Shift キーを押しながら指を読み取ります。

指とアプリケーションを関連付けたり、関連付けを変更するには、[コントロール センター] を開いて [設定] - [ユーザー設定] を選択し、[アプリケーション] タブを選択します。



登録した指とアプリケーションを関連付けるには

- 1 [追加] ボタンをクリックします。[アプリケーション] ダイアログが開きます。
- 2 登録済みの指のうち、まだアプリケーションに関連付けられていないものを選択します。
- 3 アプリケーション名を入力します（この名前は [ユーザー設定] の [アプリケーション] ダイアログに表示されます）。
- 4 起動したいファイルを参照します。実行可能ファイルであればどのファイルでもかまいません。
- 5 オプションで、ユーザーのアプリケーションが追加パラメータを必要とする場合は、[アプリケーションパラメータ] フィールドに入力します。
- 6 [OK] をクリックします。

指とアプリケーションの組み合わせを後から編集するには

- 1 [アプリケーション] ダイアログでアプリケーションを選択します。
- 2 [編集] ボタンをクリックします。
- 3 必要な変更を [アプリケーション] ダイアログで行います。
- 4 [OK] をクリックします。

指とアプリケーションの組み合わせを削除するには

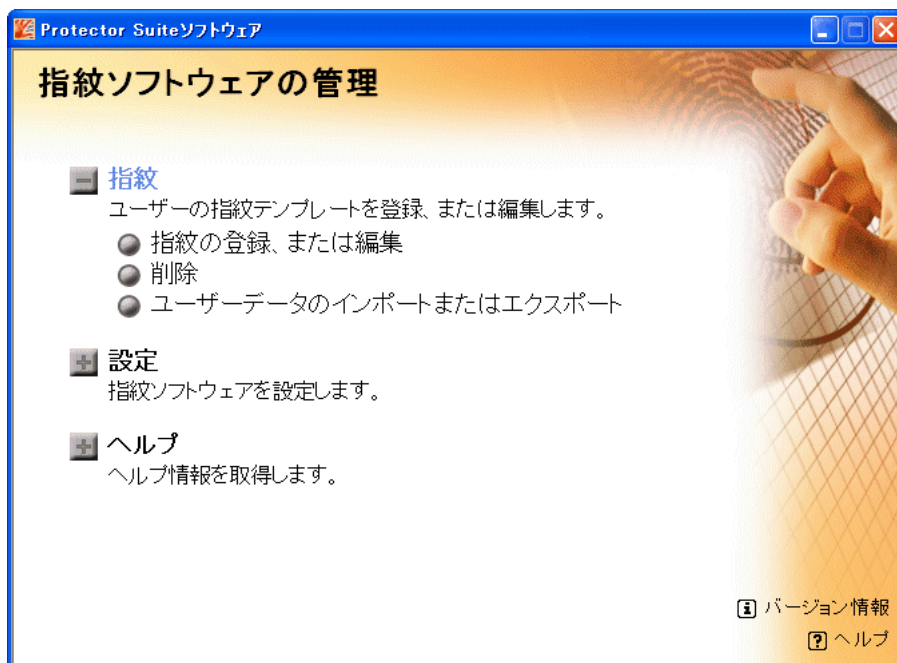
- 1 [アプリケーション] ダイアログでアプリケーションを選択します。
 - 2 [削除] ボタンをクリックします。
- [アプリケーション] タブで行った変更を保存するには、[ユーザー設定] ダイアログで [OK] をクリックします。

コントロール センター

コントロール センターのメイン画面が表示されます。この画面にトピックが表示されます。トピックをクリックして、このトピックで利用可能な操作を表示します。表示されるトピックには、[指紋]、[設定]、[ヘルプ] が含まれます。

指紋

パスポートの登録、編集、削除、エクスポート / インポートを行う画面です。利用可能な操作の一覧は、認証ハードウェア、既存のパスポート、ユーザーのアクセス権限によって異なる場合があります。



Protector Suite QL では、各ユーザーの識別にパスポートを使います。このファイルには生体認証に必要な指紋データが格納されています。パスポートは、Windows のユーザーごとに 1 つしか作成できません。同じ指の指紋を複数のパスポートに登録することはできません。

指紋の登録または編集

メモ：セキュア モードの場合、各ユーザーのパスポート登録は Protector Suite QL の管理者が行います。ただし、各ユーザーがログオン中に、自分で登録できるよう設定することも可能です。簡易モードの場合、登録または編集できるのは自分自身のパスポートのみです。

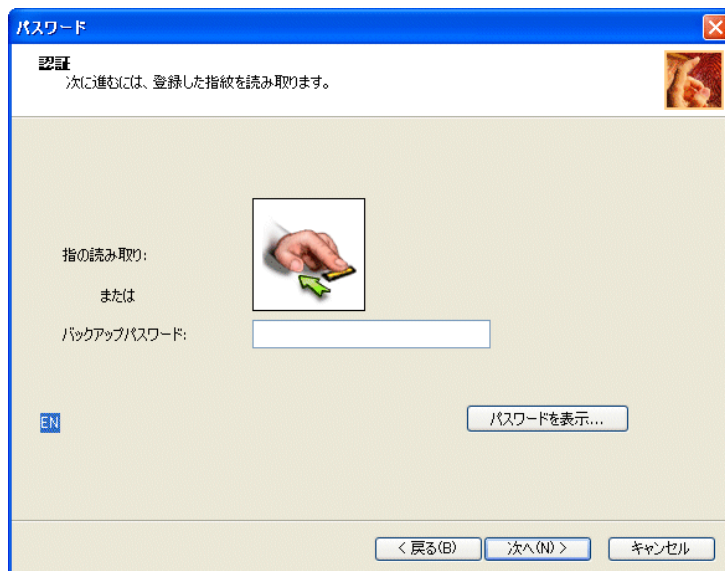
パスポートを作成し、指紋を登録する手順を以下に示します。

- 1 [スタート]- [プログラム]- [Protector Suite QL]- [コントロール センター] を選択します。
- 2 [指紋] をクリックします。
- 3 [指紋の登録、または編集] をクリックします (インストール後、最初のユーザーを登録する前には、このセクションに表示されるのは初期化ウィザードのみです。登録タイプを選択すると登録ウィザードが自動的

に開始されます)。

セキュアモードの場合は、既存のパスポートが一覧表示されます。新規ユーザーを登録するには、[登録] ボタンをクリックします。

- 4 Windows パスワードを入力し、[次へ] をクリックします。
セキュアモードの場合は、ユーザー名を手動で入力することもできます。



- 5 指紋サンプルの作成手順が表示されますので、よくお読みください。
[次へ] をクリックすると指紋チュートリアルに切り替わります。初めて使用される場合、このチュートリアルで学習することを強くお勧めします。
- 6 チュートリアルでは、指紋の正しいスキャン方法、誤ったスキャン方法を、短いビデオで説明しています。また、実際に指紋をスキャンして見ることができます。細かい手順は画面上に表示される指示に従ってください。チュートリアル終了後は[次へ] をクリックして登録処理に進みます。
- 7 手が表示された画面が現れます。指紋を登録する指をクリックし、指紋のスキャンを始めます。
- 8 選択した指を3回スキャンする必要があります。作成されたサンプルが合成されて、最終的な指紋サンプルができ上がります。
最大10本の指の指紋を登録できます。
お使いのシステムがパワーオンセキュリティに対応している場合、指

紋は既定でパワーオン認証に追加されます。ハードディスクへの登録が設定されている場合、デバイスメモリに空きがなければ、各指の上に[パワーオン] ボタンが表示されることがあります。これらのボタンで、パワーオンセキュリティに使用する指を選択します。

- 9 次のいずれかの操作をしてください。
 - ・別の指を選択してその指紋を登録します。(少なくとも2本の指を登録するようお勧めします。)
 - ・[次へ] をクリックします。
- 10 BIOS がセキュアな BIOS パスワードに対応している場合、[パワーオンセキュリティ] ページが表示されます。指紋に置き換えるパスワードを選択します。(パスワードを選択すると、パスワードを入力するように求められます)。ローカルの管理者は、ここから BIOS のパスワードを管理することもできます。[パスポートの管理] ボタンをクリックすると、[BIOS パスワード] ダイアログが開き、パスポートを設定、設定解除、または変更できます。
- 11 一部の指紋デバイスでは、追加の暗号化によりデータのセキュリティを保護することができます。このようなデバイスを使用している場合は、[拡張セキュリティ タイプ] を選択します。拡張セキュリティの詳細については、第3章を参照してください。バックアップパスワードを設定することをお勧めします。指紋認証が無効な場合に役立つことがあります。
- 12 これで終了です。[完了] をクリックしてください。

パスポートや指紋を編集する手順を以下に示します。

- 1 [スタート]- [プログラム]- [Protector Suite QL]- [コントロール センター] を選択します。
- 2 [指紋] をクリックします。
- 3 [指紋の登録、または編集] をクリックします。
セキュア モードの場合は、既存のパスポートが一覧表示されます。編集するユーザーを選択し、[編集] ボタンをクリックします。
- 4 [ユーザーのパスポートを開いています] 画面が表示されます。
- 5 指紋センサーで指を読み取るか、Windows パスワードまたは拡張セキュリティのバックアップパスワードを入力し、[次へ] をクリックします。

- 6 次のいずれかの操作をしてください。
- ・新しい指紋を登録する手順を以下に示します。
 - 該当する画像をクリックして登録する指を選択します。
 - 指紋センサーで指を読み取ります。1つの指紋を登録するためには、質のよい指紋画像が3つ必要です。
 - ・指紋を削除する手順を以下に示します。
 - 該当する画像をクリックして削除する指を選択します。
 - 確認を求められるので、[OK] をクリックします。
- ハードディスクへの登録が設定されている場合、デバイスメモリに空きがないときは、各指の上に [パワーオン] ボタンが表示されることがあります。これらのボタンで、パワーオンセキュリティに使用する指を選択します。
- 7 これで指紋の登録または削除は終わりです。[次へ] をクリックしてください。

削除

メモ：セキュアモードでは、管理者のみパスポートを削除することができます。

既存のパスポートを削除するには

- 1 [スタート]- [プログラム]- [Protector Suite QL]- [コントロールセンター] を選択します。
- 2 [指紋] をクリックします。
- 3 [削除] をクリックします。
簡易モードの場合は、指を読み取って認証するか、パスポートの削除を確認します。
セキュアモードの場合は、既存のパスポートが一覧表示されます。削除するパスポートを選択し、削除を確認してください。

ユーザーデータのインポートまたはエクスポート

エクスポートを行うと、パスポートのバックアップコピーが作成されます。デバイスへの登録が選択されている場合、エクスポートしたパスポートは、センサーを交換する必要がある場合に役立ちます。

既存のパスポートをエクスポートするには

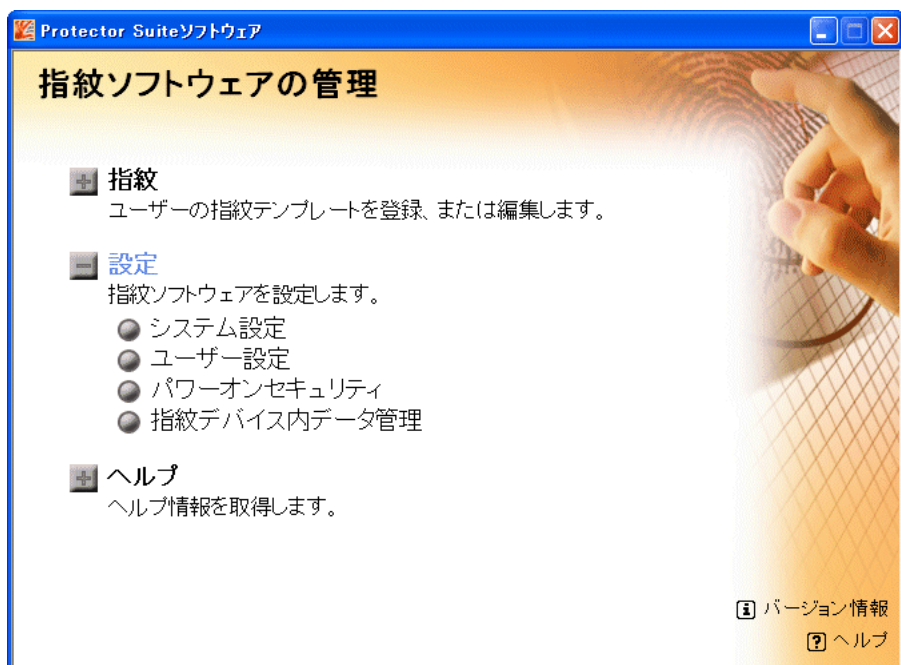
- 1 [スタート]- [プログラム]- [Protector Suite QL]- [コントロールセンター] を選択します。

- 2 [指紋] をクリックします。
- 3 [ユーザー データのインポートまたはエクスポート] をクリックします。
セキュア モードの場合は、既存のパスポートが一覧表示されます。エクスポートするパスポートを選択し、[エクスポート] をクリックしてください。
- 4 エクスポート先ファイル（拡張子 .vtp）を選択します。
- 5 エクスポートされたデータを保護するパスワードを指定します。
- 6 指（パスポートのエクスポートに使った指）で本人確認を行います。

パスポート アーカイブをインポートするには

- 1 [スタート]- [プログラム]- [Protector Suite QL]- [コントロール センター] を選択します。
- 2 [指紋] をクリックします。
- 3 [ユーザー データのインポートまたはエクスポート] をクリックします。
- 4 パスポート ファイル（拡張子 .vtp）を参照します。
- 5 エクスポート時に指定したパスワードを入力します。

設定



システム設定

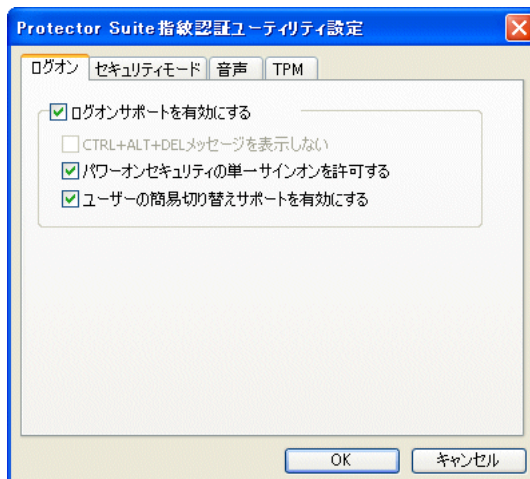
[システム設定] ダイアログは、システム構成によっても異なりますが、いくつかのページに分かれています。以下に説明するページすべてが表示されるとは限りません。

全般

[Windows の [スタートアップ] メニューの [コントロール センター] を表示] チェック ボックスは、システム起動時にコントロール センターのメイン画面を表示するか否かの切り替えに使います。

ログオン

メモ：管理者のみログオン設定を変更することができます。また、変更内容によってはコンピュータの再起動が必要です。



ログオン設定を変更する手順を以下に示します。

- 1 [スタート]- [プログラム]- [Protector Suite QL]- [コントロール センター] を選択します。
- 2 [設定] をクリックします。
- 3 [システム設定] をクリックします。[ログオン] ページに切り替えます。
- 4 チェック ボックスで、必要なオプションのオン/ オフを切り替えてください。

Windows ログオンを指紋保護されたログオンにする

オンにすると、指紋認証によりログオンできるようになります。オフならば指紋認証は使えず、Windows パスワードを入力してログオンする必要があります。

Ctrl+Alt+Del メッセージを表示しない

標準の Windows CTRL+ALT+DEL メッセージが表示されないようにします。指を読み取るためのヒントだけが表示されます（ユーザー名/ ドメイン/ パスワードを入力するログオン ダイアログは、Ctrl + Alt + Delete キーを押すと呼び出すことができ、これによってユーザーはユーザー名とパスワードを使用してログオンすることができます）。

パワーオン セキュリティで認証済みのユーザーを自動ログオン（パワーオン セキュリティをサポートする設定でのみ有効）

オンにすると、パワーオン認証と Windows 認証の機能が連携するようになります。パワーオンセキュリティ機能で使用する指紋が、ある既存のパスポートの指紋と一致する場合、該当するユーザーは、Windows に自動的にログオンできます。オフであれば、パワーオン認証が有効であっても、BIOS にログオンする際と Windows にログオンする際に指紋認証が必要です。

ユーザーの簡易切り替えサポートを有効にする

このチェック ボックスを使用して、Windows XP に組み込まれた、ユーザーの簡易切り替え機能を有効および無効にすることができます（お使いのシステムが対応している場合）。ユーザーの簡易切り替え機能に対応しているが、有効になっていない場合、お使いのシステムでユーザーの簡易切り替えを有効にするよう指示されます。

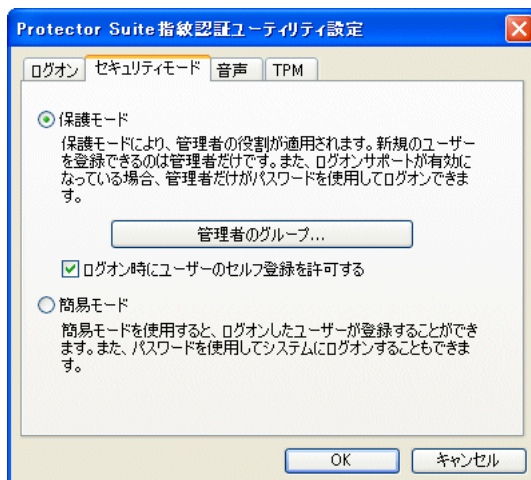
5 [完了] をクリックします。

セキュリティ モード

メモ： 管理者のみがセキュリティ モードを変更することができます。

[セキュリティ モード] 画面では、指紋認証機能に関する管理権限の取り扱い方を設定します。簡易モードとセキュア モードの 2 つのセキュリティ モードがあります。簡易モードでは、どのユーザーの権限も同じです。自分自身のパスポートを作成する権限、Windows のユーザー名とパスワードでログオンする権限などが、どのユーザーにも与えられます。

しかしセキュア モードに切り替えると状況が変わります。管理機能が無制限に使えるのは、管理者権限を持つユーザーに限ります。その他のユーザーは、（セルフ登録を許可する設定の場合を除き）パスポートを管理者に依頼して作ってもらう必要があります。編集できるのは自分自身のパスポートに限ります。



セキュリティ モードを切り替える手順を以下に示します。

- 1 [スタート]- [プログラム]- [Protector Suite QL]- [コントロール センター] を選択します。
- 2 [設定] をクリックします。
- 3 [システム設定] をクリックします。[セキュリティ モード] ページに切り替えます。
- 4 セキュリティ モードを選択します。次の中から選択してください。

・セキュア モード- このモードでは、Protector Suite QL の管理には管理者権限が必要です。管理上重要な機能（パスポート管理）は、特定の管理者しか実行できないようにして安全性を確保します。管理者以外のユーザーは、Windows のユーザー名とパスワードではログオンできません。

[管理者グループ] ボタンをクリックし、Protector Suite QL の管理者権限を持つユーザーの一覧を編集してください。

[ログオン時にユーザーのセルフ登録を許可する] をオンにすると、管理者権限のない一般のユーザーでも、ログオン時に自分自身の指紋を登録できるようになります。この場合、管理者権限のないユーザーは、最

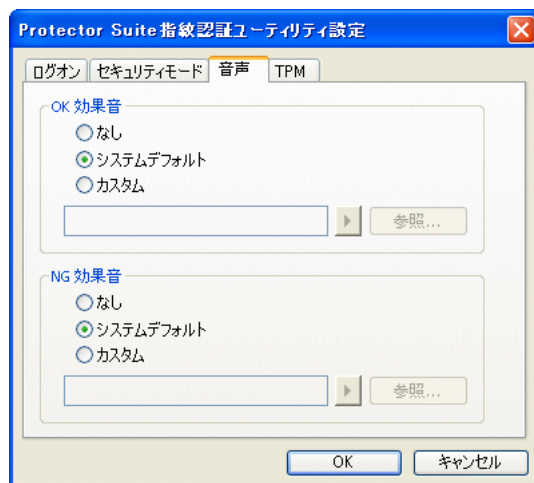
初のログオン時に Windows のユーザー名とパスワードを入力した後、パスポートの登録を要求されます（つまり、指紋を登録するまでログオンは成功しないということです）。

・簡易モード- 家庭用で、セキュリティよりも使い勝手を重視する場合を想定したモードです。

音声

メモ：管理者のみが音声の設定を変更することができます。

指紋の操作が成功または失敗したときに使用する音声を選択します。既定のシステム音声を使用したり、音声を無効にしたりすることができます。また、任意のオーディオ ファイル（.wav 形式）を参照することもできます。



TPM

メモ：管理者のみが TPM モジュールを初期化することができます。

このページは、サードパーティーの TPM 管理アプリケーションが検出されたときに表示されます。TPM の初期化により、Protector Suite QL 拡張セキュリティ機能から TPM セキュリティ モジュールを使用できるようになります。

TPM モジュールを初期化するには

- 1 [TPM を初期化] ボタンをクリックして、TPM 初期化ウィザードを実行します。
- 2 [ようこそ] 画面で [次へ] をクリックします。初期化が行われます。

- 3 操作の結果が表示されます。操作が成功すると、*Protector Suite QL* に TPM セキュリティを追加できます。[完了] ボタンをクリックし、ウィザードを終了します。

ユーザー設定

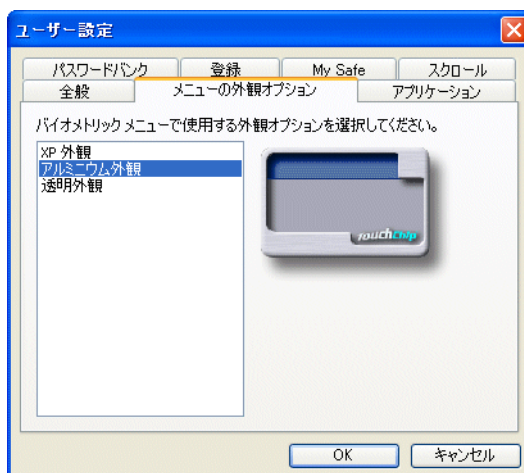
メモ：[ユーザー設定] へのアクセスには生体認証が要求されます。

全般

[トレイにアイコンを表示] チェック ボックスをオンにするとトレイ アイコンが表示され、一部の Protector Suite 機能にすばやくアクセスできるようになります。トレイ アイコン メニューの詳細については、52 ページを参照してください。

バイOMETリック メニューの外観

バイOMETリック メニューには数種類の表示形式（外観）があります。外観を選択してください。



パスワードバンク

このページは 2 つの部分に分かれています。

[ヒント] の部分はどのユーザーでも使えます。ここでは、実行可能な操作に関するヒントを表示するタイミングを設定します。

もう一方は管理者しか使えません。この 2 つ目の部分は、Mozilla、Netscape、または Firefox がインストールされている場合に表示されます。Mozilla、Netscape、または Firefox が検出されると、サポートを有効にするかどうかを確

認するメッセージが表示されます。ここで Mozilla、Netscape、または Firefox のサポートを有効にすることもできます。ブラウザでパスワードバンクを使用できるようにするには、対応するチェック ボックスをオンにしてください

詳細については、27 ページを参照してください。

登録

このダイアログには、既存のすべての登録が表示されます。登録済みのページとダイアログが表示されます。

詳細については、27 ページを参照してください。

スクロール

センサーを使用して、長いドキュメントなどの各種ウィンドウをスクロールすることができます。

長いドキュメントなどで指紋スクロールを使用するには、スクロール切替ホットキー（このホットキーは既定では設定されていないので、初めて使用する時には先に設定しておく必要があります）を押してスクロールを有効にします。スクロール機能を使用するときは、センサーでバイオメトリックメニューを起動することはできません。標準の Protector Suite QL の動作を有効にするには、スクロールが終了してからホットキーを再度押す必要があります。

[スクロール] ページでは、スクロールの速度と加速度や、スクロール ホットキーの設定を調整できます。このホットキーでスクロール機能のオン / オフを切り替えます。既定では、ホットキーは使用されません。

- 移動速度を調整するには、[速度] スライダーを移動します（指を速く動かすほど、スクロールも速くなります。この設定で速度を制御します。）
- 加速度を調整するには、[加速度] スライダーを移動します。（同じ方向に指を長く動かすほど、スクロールが速くなります。この設定で速度を制御します。）
- 設定をテストします。[テスト スクロール] ボタンをクリックして設定をテストします。
- スクロール切替ホットキーを設定または変更するには、対象フィールドにフォーカスを置き、目的のキーの組み合わせを押します。使用可能なホットキーの一覧がダイアログに表示されます。

My Safe

このページには、My Safe の管理オプションが表示されます。My Safe の状態（ロック / アンロック）とサイズ（My Safe が開いている場合は空き容量と使用済み容量）に関する情報が表示されます。

詳細については、32 ページを参照してください。

アプリケーションランチャー

指紋で起動できるアプリケーションの一覧が表示されます。アプリケーションランチャーには、登録済みの指紋数から 1 を引いた数までのアプリケーションを入れることができます。

詳細については、35 ページを参照してください。

パワーオンセキュリティ

オプションのパワーオンセキュリティ機能は、BIOS レベルの機能を使って、コンピュータへの許可されていないアクセスを防止する機能です。パワーオンセキュリティ機能が有効になっているコンピュータには、BIOS レベルで指紋認証を通過しなければオペレーティングシステムが読み込まれません。

コンピュータは、スキャンされた指紋が、登録されている現在のユーザーの指紋に一致する場合のみ電源がオンになります。認証に成功すると、パワーオンプロセスが通常どおり続行されます。BIOS に応じて指定された回数だけ続けて認証に失敗するとアクセスは拒否され、コンピュータを再起動しなければなりません。

指紋認証ユーティリティのパワーオンセキュリティを有効にする手順

システムでパワーオンセキュリティがサポートされていれば、パワーオンセキュリティ ウィザードで指紋認証ユーティリティのパワーオンセキュリティを有効にすることができます。既定ではパワーオンセキュリティ機能は有効になっています。

パワーオンセキュリティの機能の有効 / 無効を切り替える手順を以下に示します。

- 1 [スタート]- [プログラム]- [Protector Suite QL]- [コントロール センター] を選択します。
- 2 [設定] をクリックします。
- 3 [パワーオンセキュリティ] をクリックします。
- 4 [パワーオンおよびハード ドライブのパスワードを指紋読み取り装置に差し替える] チェック ボックスをオンにします。

5 パワーオン セキュリティの実装はハードウェアによって異なります。
詳細については、[詳細] リンクを参照してください。

6 [完了] をクリックします。

ハードディスクへの登録が設定されている場合、[パワーオン セキュリティ] ダイアログで使用可能なオプションが増えます。パワーオン セキュリティ メモリに存在する指紋は、[パワーオン セキュリティで認証されている指紋] ウィンドウに表示されます。ここでパワーオン セキュリティ メモリから指紋を削除することができます。

メモ：パスポートに指紋を追加または削除すると、パワーオン セキュリティで使う指紋が自動的に追加または削除されます。

パワーオン セキュリティにより認証済みのユーザーの自動ログオン

パワーオン セキュリティは、ユーザーが Windows にログオンするように設定することもできます。これが有効であれば、パワーオン セキュリティ機能で使用する指紋が、ある既存のパスポートの指紋と一致する場合、該当するユーザーは、Windows に自動的にログオンできます。通常、パワーオン セキュリティ機能の使用時と Windows へのログオン時の 2 回指紋認証が必要ですが、その手間を省略して 1 回で済ませるための機能です。

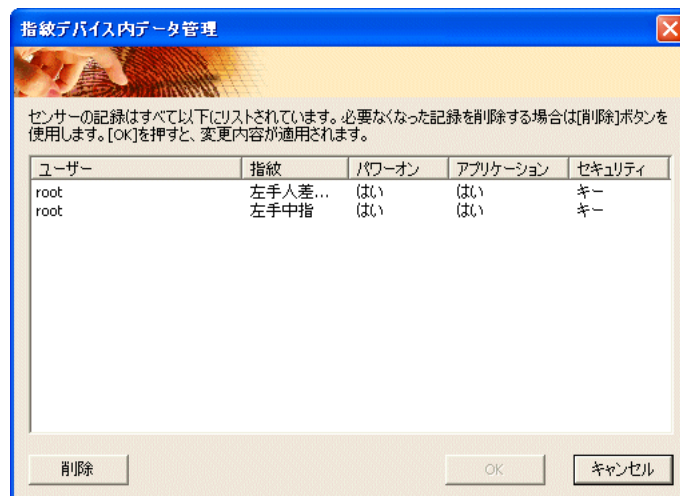
パワーオン セキュリティにより認証済みユーザーの自動ログオンを有効にする手順を以下に示します。

- 1 [スタート]- [プログラム]- [Protector Suite QL]- [コントロール センター] を選択します。
- 2 [設定] をクリックします。
- 3 [システム設定] をクリックし、[ログオン] ページに切り替えます。
- 4 [パワーオン セキュリティの単一サインオンを許可する] チェック ボックスをオンにします。

指紋記憶検査装置

指紋記憶検査装置は、指紋読み取りデバイスに保存されたデータを表示、編集するためのツールです。デバイス中のレコードがすべて表示されます。

指紋ごとに、パワーオン セキュリティ（起動前認証）、アプリケーション（ログオンなど）、および拡張セキュリティの状態（TPM または拡張セキュリティなし）の使用法に関する情報とともにその指紋の説明が表示されます。



指紋をデバイスから削除するには

- 1 データを削除したい場合は、該当するレコードを選択して [削除] ボタンをクリックします。削除すると、レコードの一覧にも反映されます。
- 2 不要なレコードをすべて削除した後 [OK] ボタンをクリックすると、変更が確定します。[キャンセル] をクリックすれば削除を取り消すことができます。

メモ：セキュア モードでは、管理者のみがレコードを削除することができます。簡易モードでは、自分自身の指紋または既存のパスポートに存在しない指紋を削除できます。各パスポートに 1 つ以上の指紋を残す必要があります。パスポート全体を管理または削除するには、[指紋の登録、または編集] ウィザードを使用します。

ヘルプ

紹介

Protector Suite QL のすべての基本機能の概要が [紹介] 画面に表示されます。ダイアログのリンクをクリックすると、該当するヘルプ トピックが表示されます。

チュートリアル

指紋デバイスを正しく使用するためのチュートリアルがあります。このチュートリアルでは、指紋の正しいスキャン方法を実習します。

このチュートリアルはコントロール センターからいつでも実行可能です。または、[スタート] メニューから [プログラム] - [Protector Suite QL] - [指紋チュートリアル] を選択して実行することもできます。

このチュートリアルでは、指紋の正しいスキャン方法、誤ったスキャン方法を、短いビデオで説明しています。高画質の指紋サンプルをスキャンする方法も学ぶことができます。

指紋サンプルを作成し、スキャンした画像を見ることもできます。センサーに指を通す適切な位置、圧力、速度、スムーズさを理解することができます。

システム トレイ アイコン

システム トレイの Protector Suite QL アイコンは Protector Suite QL が実行中であることを示し、指紋認証が不要な機能はここから操作できます。



指紋の編集 ...

指紋登録ウィザードを開き、追加の指紋の登録を行います。このウィザードは、バイオメトリック メニューで [設定] - [指紋] を選択して表示することもできます。

コントロール センター開始 ...

Protector Suite QL のコントロール センターを起動します。

[センサーを使わない] / [センサーを使う]

メモ：この機能は生体認証アプリケーションの開発者などの上級ユーザーのみを対象にしています。

Protector Suite QL を指紋デバイスから外すことができます。現在のユーザーセッション中、一時的にデバイスを外すことができます（デバイスは一度に1つのアプリケーションでしか使えません）。このオプションは、他の生体認証アプリケーションを開発または使用し、Protector Suite QL でデバイスを取り外す場合に適しています。

[センサーを使わない] を選択すると、指紋認証は行われません。

ヘルプ

ヘルプ システムを表示します。

バージョン情報

プログラムとそのバージョンについての情報を表示します。

A hand is shown touching a fingerprint sensor on a device. The sensor is a circular area with a grid pattern. The hand is positioned over the sensor, with the index finger touching it. The background is a light yellow color with a subtle grid pattern.

第4章

トラブルシュー ティング

この章では、Protector Suite QL を使用中に問題が発生した場合に役立つ情報を記載しています。

インストール

Protector Suite QL をインストールできません。

- 権限を調べてください。Protector Suite QL をインストールするユーザーには管理者権限が必要です。
- ディスクの空き容量が十分かどうかを調べてください。Protector Suite QL をインストールするには、およそ 40 MB が必要です。
- システムを調べてください。サポートされているのは Windows 2000 および Windows XP のみです。

インストールしても Protector Suite QL が作動しません。

- Protector Suite QL はインストールした後で再起動する必要があります。

指紋登録

デバイスが機能しません。

- デバイスの接続を調べてください。
- ドライバが正しくインストールされているかどうかを調べてください。通常、ドライバは Protector Suite QL のインストール時にインストールされます。ただし、問題がある場合には、インストール フォルダの [Drivers] サブフォルダにある必要なドライバを使用できます。デバイス固有のドライバのインストールについては、[Drivers] フォルダの Readme.txt を参照してください。（デバイスのステータスを調べるには、[マイ コンピュータ] を右クリックし、[プロパティ]- [ハードウェア] を選択して、[デバイス マネージャ] を開きます。）

指紋を登録できません。指紋が正しく認識されません。

- 指紋チュートリアルを実行して、適切なサンプルを作成する方法を確認してください。指紋チュートリアルは、指紋登録の一部として実行するか、[スタート] メニューから個別に実行できます。
- センサーへの押し付け方を強くまたは弱くしてみてください。
- 指をなぞる速さを変えてみてください。
- センサーを掃除してください。糸くずなどが付いていない布を湿らせて（水または無香料の保湿ローションを使用）、センサーを軽くこすります。傷が付くような布は使用しないでください。
- 指を拭いてください（特に、暑いとき）。

- 別の指で試してください。通常は、人差し指の方が小指よりも簡単に登録できます。

1本だけ登録している指を怪我したため、指紋認証を使用できません。別の指を登録するにはどうすればよいですか？

Protector Suite QL の全機能を使用するには、使用可能な登録された指紋が必要です。このような問題を避けるために、少なくとも2本の指を登録することを強くお勧めします。

登録されている指紋を更新するには、[指紋の登録、または編集] ウィザードを実行する必要があります。

- 拡張セキュリティを使用していない場合は、Windows のパスワードを使用してウィザードを実行できます。
- バックアップパスワード付きの拡張セキュリティを使用している場合は、バックアップパスワードを使用してウィザードを実行できます。
- バックアップパスワードなしの拡張セキュリティを使用している場合、残念ながら別の指紋を追加する方法はありません。この場合、指を読み取れるようになるまで（怪我が治るまで）待つか、パスポートを削除（[削除] ウィザード）して新しい指紋を再登録することをお勧めします。パスポートを削除して指紋を再登録すると、保存している機密データ（パスワード、暗号化キー）はすべて失われるので注意してください。削除操作を実行するには、指紋照合操作をキャンセルしてパスワードダイアログを表示し、Windows のパスワードを入力する必要があります。
- [指紋リーダーのキー] または [指紋リーダー キー (TPM あり)] が拡張セキュリティのタイプとして設定されている場合は、登録操作の最後に、デバイスの機密情報をアンロックするために、最初に登録していた指の読み取りを求められます。これは不可能なので、ウィザードを終了する前に拡張セキュリティを無効にする必要があります。ウィザードを終了したら、新たに登録した指を使用してウィザードを開始し、拡張セキュリティを再び有効にします。新しい指紋に関連付けて新たに一連のキーを作成するにはこのような手順が必要です。

登録プロセスを終了した後で、また指の読み取りを求められました。どうしてですか？

このようなメッセージが表示されるのは、拡張セキュリティのバックアップパスワードを使用して「指紋の登録、または編集」ウィザードを実行したとき、「指紋リーダーのキー」または「指紋リーダー キー（TPM あり）」が拡張セキュリティのタイプとして設定されているとき、および新しい指紋をパスポートに追加したときです。

- この動作は正常です。新しい指紋に関連付けて新たに一連のキーを作成するにはこの照合が必要です。

セキュア モードでユーザーを登録できません。

- ユーザー パスポートが存在しているかどうかを調べてください。おそらくユーザーは既に登録されていると考えられます。各ユーザーは1 つしかパスポートを持つことができません。

ユーザーのインポートが機能しません。

- ユーザー パスポートが存在しているかどうかを調べてください。既存のユーザーのデータをインポートする場合は、まず古いパスポートを削除する必要があります。
- 「指紋記憶検査装置」（「コントロール センター」- 「設定」- 「指紋記憶検査装置」）でデバイス メモリを調べてください（デバイスへの登録が使用されている場合のみ）。

なぜユーザー パスポートをエクスポートする必要があるのですか？

エクスポートしたデータには、指紋の情報、ログオン資格情報、パスワード バンク登録、My Safe の暗号情報（My Safe のデータは含まない）が含まれます。

- これらすべての情報のバックアップとしてユーザー データを定期的にエクスポートしてください。

拡張セキュリティのバックアップパスワードを紛失しました。

- 拡張セキュリティのバックアップパスワードを変更するには、「指紋の登録、または編集」ウィザードを実行し、指を読み取って、指紋登録を行ってください。拡張セキュリティのページでバックアップパスワードを変更できます。

センサーを交換する必要があります。

壊れた指紋センサーすなわち読み取り装置を交換する場合は、次の手順を実行します。

ハードディスクへの登録

- ハードディスクへの登録を使用している場合、*Protector Suite QL* はデバイスにはデータを保存しません。このため、センサーを交換した後に処理を行う必要はありません。パワーオンセキュリティ（起動前認証）を使用している場合は、[指紋の登録、または編集] ウィザードを使用して関連データを更新することが必要な場合があります。

デバイスへの登録

- パスポートと指紋デバイスが関連しているため、現在のパスポートを以前エクスポートしたパスポートで置き換える必要があります。

次のようにバックアップを新しいデバイスにインポートして、パスポートを復元することができます。

- 1 パスポートを削除します。
- 2 新しい（機能する）デバイスを接続します。
- 3 バックアップファイルからパスポートをインポートします。

外部読み取り装置の切り替え

- ここで説明した手順は、*Protector Suite QL* で複数の指紋読み取り装置を使用する場合にも使用できます（たとえば、内蔵の読み取り装置と外付けの読み取り装置が1台ずつある場合、あるいは2台の外付け読み取り装置を切り替える場合）。ハードディスクへの登録を使用していれば、通常、問題はありません。ただし、パワーオンセキュリティ（起動前認証）で例外が発生する可能性があります。デバイスへの登録を使用している場合は、十分な理由がない限りは、読み取り装置を切り替えないようにしてください。切り替えると、パスポートの削除と再作成が必要になります。

デバイスへの登録を使用している場合に、コンピュータで認識されているが未登録のユーザーのデータ（別の *Protector Suite QL* または以前の *Protector Suite QL* のデータ）が読み取り装置に含まれていると、そのデータを再利用するかどうかを確認するメッセージが表示されます。

新しい読み取り装置に、既に登録済みのユーザーのデータが含まれていても、そのデータを再利用することはできません。セキュリティ上の理由により、指紋はデバイスから削除されます（未確認の人物の指紋を取り込まないようにするため）。

TPM モジュールが機能しません。

TPM (Trusted Platform Module) による拡張セキュリティを使用しているときに、TPM モジュールが破損したり、消去されたり、無効になったりした場合、拡張セキュリティは機能しなくなります。

拡張セキュリティのバックアップパスワードを設定している場合は、次の手順を実行します。

- 1 バックアップパスワードを使用して [指紋の登録、または編集] ウィザードを実行します。
- 2 拡張セキュリティを無効にし、終了します。
- 3 TPM を修復または有効にした後で、あるいは TPM が消去された場合はそのままの状態、指を読み取って [指紋の登録、または編集] ウィザードを再び実行し、TPM による拡張セキュリティを再び有効にします。

ユーザーの簡易切り替え

ユーザーの簡易切り替えを有効にできません。

このオプションは、Windows XP が稼働するコンピュータのみで表示されます。ユーザーの簡易切り替え機能を使用できるのは、ドメインのメンバではないコンピュータのみです。

- 使用するコンピュータがドメインに含まれないことを確認してください。
- 他のソフトウェア (Novell Client など) をインストールしたためにユーザーの簡易切り替えが使用できなくなることがあります。

ログオン

ユーザー名とパスワードを使用してログオンできません。

- セキュリティ モードを調べてください。すべてのユーザーがユーザー名とパスワードでログオンできるのは、簡易モードのみです。セキュア モードでこのオプションを使用できるのは管理者のみです。

Protector Suite QL System のシステム設定が [コントロール センター] に表示されていますが、変更できません。

- ユーザー権限を調べてください。システム設定を変更できるのはローカル管理者のみです。ローカル管理者になることと、Protector Suite QL の管理者グループのメンバであることは異なります。このグループのメンバは、パスワード、指紋、パワーオンセキュリティを管理し、ユーザー名とパスワードを使用してログオンできます。

パスワードバンク

登録済みページが Internet Explorer で間を置いてリプレイされます。

登録がリプレイ（および作成）されるのは、ページが完全に読み込まれた後です。Internet Explorer では、ページがまだ読み込まれていなくても、読み込み済みであると誤って示される（右上隅のアニメーションが停止する）ことがあります。ユーザーが [中止] をクリックして読み込みを終了しても、IE でコマンドが無視され中止されない場合があります。このような場合には、ページの読み込みが完了するまで待ってください。ページが既に読み込まれている場合でも、マウスをアクティブな項目（フラッシュアニメーションなど）に移動するとオブジェクトの読み込みが開始されるページで、同様の問題が発生することがあります。

- ページが完全に読み込まれるまで待ってください。

既に登録されているページを登録できません。指を読み取ると、リプレイが始まります。

- **SHIFT** キーを押しながら指を読み取ると、既に登録済みのページまたはダイアログが登録されます（登録のリプレイは行われません）。

パスワードバンクでダイアログを登録できません。

パスワードバンクは、標準のコントロールを含まないダイアログを正しく処理できません。Microsoft Office のダイアログもこれに該当します。

- パスワードバンクは、主に、ユーザー名とパスワードを含む単純な標準のダイアログに対応します。複雑なダイアログや標準以外のダイアログに関しては問題が発生することがあります。

登録が正しくリプレイされません。

- パスワードバンクのリプレイでは、リプレイで使用されるページが、登録の作成時と正確に同じであることが必要です。このため、JavaScript を使用して動的に作成されるページや、見た目が同じでも内容が異なるフォームを含むページでは、問題が発生することがあります。

My Safe

My Safe の使用を開始できません。

ウィルス関連ソフトウェアがアクティブになっていると、My Safe の作成が完了しません。この問題は、Norton AntiVirus や Sophos などで見られます。

- *My Safe.fdp* ファイルを無視するようにウィルス関連ソフトウェアを設定してください。My Safe は暗号化された形式で保存されるため、内容のスキャンには意味がありません。

指紋を使用して My Safe にアクセスできません。

- My Safe へのアクセスには、常に My Safe バックアップパスワードを使用できます。

My Safe が開いたまま（アンロック）になります。

My Safe フォルダは、ログオフまたはシャットダウン時に自動的に閉じられます。ただし、コンピュータをロックした場合、ファイル ブラウザを閉じた場合、または生体認証デバイスを外した場合には、My Safe は開いたままになります。

- 保存したデータの処理が終わったら常に My Safe を閉じる（ロックする）ことをお勧めします。

別の Protector Suite QL インストールにある My Safe を使用するには、どうすればよいですか？

- *MySafe.fdp* を別のコンピュータにコピーすることは可能です。ただし、認証情報（指紋、暗号化キーなど）はインストールごとに異なるため、My Safe バックアップパスワードが必要です。このバックアップパスワードは、My Safe フォルダの作成時に定義したものです。

My Safe バックアップパスワードを紛失しました。

My Safe バックアップパスワードを直接変更することはできません。新しい My Safe フォルダを作成する必要があります。

データを失わずに新しい My Safe フォルダを作成するには

- 1 My Safe フォルダをアンロックします。
- 2 My Safe フォルダのデータを他のフォルダにコピーします。
- 3 [コントロールセンター]- [設定]- [ユーザー設定]- [My Safe] を選択して、[My Safe] を削除します。
- 4 新しい My Safe フォルダを作成し、新しい My Safe バックアップパスワードを定義します。
- 5 コピーしておいたデータを新しい My Safe フォルダにコピーします。

My Safe バックアップパスワードを使用して My Safe フォルダをアンロックしたときに、My Safe の一部の機能が使用できません。

- バックアップパスワードは、緊急にデータにアクセスする必要がある場合のみ使用してください。My Safe フォルダをアンロックするための通常の手順ではありません。My Safe フォルダにアクセスするには指紋照合を使用します。指紋照合を使用できない場合は、前の問題で説明したように、データをバックアップしてから新しい My Safe フォルダを作成します。

コンピュータがクラッシュしました。My Safe フォルダのデータを復元するにはどうすればよいですか？

コンピュータまたは OS がクラッシュした場合でも、My Safe フォルダのデータファイルをリカバリすることができれば、My Safe データにアクセスすることは可能です。データ ファイルは、"C:\Documents and Settings\<username>\Application Data\Protector Suite\My Safe.fdp" にあります。

- リカバリ先のシステムで My Safe.fdp ファイルを同じフォルダに配置し、Protector Suite QL をインストールします。エクスポートしたパスポートがある場合は、ここでインポートすると、指紋を使用して My Safe フォルダに直接アクセスできます。エクスポートしていない場合は、My Safe バックアップパスワードを使用して My Safe フォルダにアクセスできます。My Safe フォルダを開くと、インストールが変更されたことが認識され、バックアップパスワードを使用するように求められます。

